

おはなしだより 2月

<年長>

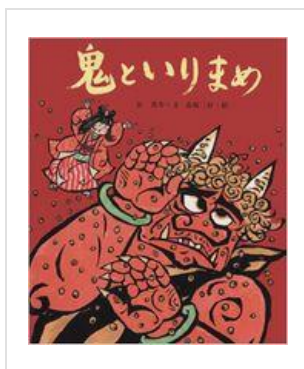
鬼といりまめ 二月

作: [谷 真介](#)

絵: [赤坂 三好](#)

出版社: [佼成出版社](#)

雨を降らせてくれた代わりに、鬼のもとへ嫁いだおふくは、毎日母さんの所へ帰りたいと願っていました。2月3日節分に豆まきをするようになった由来話。



おにがきた

作: [はた よしこ](#)

原案: [片倉 信夫](#)

出版社: [偕成社](#)

「うそをつくと鬼がおなかにとびこむのよ。」と幼稚園で先生にいわれたこうへいは、帰り道にとつぜんおなかがいたくなってきた?

<年中>

はるさんがきた

作: [越智のりこ](#)

絵: [出久根 育](#)

出版社: [鈴木出版](#)

冬。雪は私たちにさまざまな表情を見せてくれます。空から舞い降りてきたばかりの雪、降りつもる雪、そんな雪たちの会話を聞いてみたいと思いませんか。この絵本を開いてみてください。今年の雪が、きっと、いっそう美しく、いっそう親しみ深く思えるでしょう。



だいくとおにろく

再話: [松居 直](#)

絵: [赤羽 末吉](#)

出版社: [福音館書店](#)

川に橋をかけようとする大工とその川に住む鬼のユーモラスなやりとり、民話の語り口を生かした文章、日本の伝統的な美しい絵、すべてが子どもを満足させます。

<年少>

さっちゃんのでぶくろ

作: [内田 麟太郎](#)

絵: [つちだ のぶこ](#)

出版社: [金の星社](#)

寒い冬にピッタリ、心あたたまる絵本

さっちゃんは手袋をなくしてしまい、探しに行くと雪の下から「ここから出して」という声が…。なんと、おすもうさんの手袋でした。ストーブで干すと、意外なことが次々に起こります。楽しくて優しい気持ちになれる絵本。



ふゆめがっしょうだん

作: [長 新太](#)

写真: [富成 忠夫](#) [茂木 透](#)

出版社: [福音館書店](#)

冬の公園や雑木林で、木の芽を見てごらん。ほら、ウサギさんがいたりコアラ君がいたり……冬芽って動物たちの顔に見えるんだね。木の芽の冬姿を撮影、拡大した愉快的な写真絵本です。